



苦しみ、悩むことが貴重な経験



湯田先生と作戦を練る5年生

11月17日(金)に「スポーツこころのプロジェクト」というJFA(日本サッカー協会)とスポーツくじの共催事業が本校5年生を対象に実施されました。今年度は陸上競技特に駅伝(ワコール)で活躍した湯田 友美さんが来校され、子どもたちと一緒に運動したり、自分の体験をお話ししたりしてくださいました。

特に講話では、自分が小学校4年生の時にたまたま校内の持久走の大会でよい成績を収め、走ることの喜びに目覚め中学校や高校では悔しい経験をバネに練習に励んだ結果、ジュニアの世界大会に日本代表として競技することができるようになったという経験をお話ししてくださいました。このお話の中で、人が何かに没頭し、自己を高めていく過程

を学ぶことができました。

その過程とは

- ① 自分にも得意なことがあるという気付きがある。(自己有用感、自信)
- ② 自信があることが好きになり、没頭する。(活動、実践)
- ③ こうなりたい、ここまで到達したいという目標をもつ。(目標設定)
- ④ 目標を達成するために何をしなければならないかを考える。(計画、見通し)
- ⑤ 途中で失敗したり、挫折したりしてもあきらめず、改善点をみつけて努力する。(反省、改善)

などに分けられるように思います。これはスポーツの世界だけではなく、勉強や趣味の世界などで自分が少しでも「レベルアップしたい!目標を達成したい!」と思った時に歩む道だと思います。しかしながら、この過程はだれでもできる道のりではありません。①~③までの志はだれもがもつことができるでしょう。しかしながら「計画、見通し」「反省、改善」は自分の生活や心のもちかたの変化を必要とするため、なかなか難しいことです。何度か失敗し、くじけてしまいがらも大人になるまでに繰り返し経験することが大事だと思います。

子どもたちの中には成功の目処がないと挑戦しなかったり、一度躓くとあきらめて止めてしまう子が多くいます。子どもが苦しみ、悩む時はよい経験を積んでいる時です。「子どもの意志に任せる。」ではなく、苦境に立ち向かい、乗り越える強い気持ちをもって、努力する子になるように大人が励まし、支援していきたいものです。その経験がきっと大人になって生きてくるのではないのでしょうか。



湯田先生の前で将来の夢を語る5年生

学校評価アンケートに御協力ください

冬休みまであと1か月となり、2回目の「学校評価アンケート」を実施する時期になりました。保護者の皆様にはこれまでの教育活動の様子を評価していただくこととなります。御苦勞をおかけしますが御協力の程よろしくお願いたします。

